

COVID-19

新型コロナ特別紙面

8割が「コロナ後も継続」

県内主要200社調査

四国新聞社が県内のリーディングカンパニー200社を対象に行った採用と雇用に関するアンケートで、オンラインを使った採用活動について、8割近くの企業が新型コロナウイルス感染症拡大収束後も継続する考えであることが分かった。多くの企業が「距離や時間の問題が解消され、志望者を確保しやすい」などのメリットを感じている。ただ「学生の人となりが見えにくい」などデメリットを感じる企業も多く、オンラインと対面の併用が定着しつつある。

全業種	使う	使わない
サービス	76.4	23.6
建設	100	0
運輸	93.3	6.7
製造	75.0	25.0
金融	72.7	27.3
小売	71.4	28.6
卸	69.2	30.8
その他	55.6	44.4

(単位は%)

新型コロナウイルス収束後も採用活動でオンラインを使うか

アンケートによると、全体の76.4%が新型コロナウイルス収束後もオンラインを使った採用活動を検討すると回答した。業種別では、サービスは全社

採用活動でのオンライン導入

が継続。コロナ以前から人手不足が深刻とされる建設も93.3%と高かった一方、小売は69.2%、卸売は55.6%で全業種の平均を下回った。21年春の採用活動では、84.6%の企業が感染防止対策を踏まえた方式を実施。最も多く使われたのは「オンラインでの説明会や面接」で、対策を実施した企業の80.9%が活用。次点の「説明会や面接の回数を増やし、参加者を分散」(29.1%)や「広い会場を利用する」(24.5%)を大幅に上回った。オンラインでの説明会や面接

対面との併用定着

が最も多い。説明会や面接の回数が増え、参加者が分散する傾向がある。一方で、デメリットは「学生の人柄、雰囲気分かりづらい」が最多。会社に来て製造現場や社内の雰囲気を感

今春の採用活動で取り入れた感染防止対策

オンラインでの面接	80.9
説明会や面接の回数増	29.1
広い会場を使う	24.5
最終試験場数を減らす	5.5
会場を増やす	2.7
その他	4.5

(単位は%)

もらえないことなどから「会社の特徴を伝えにくい」という企業もあり、「学生も決める手をつけているようだが辞退者が多くなった」とする意見もあった。こうしたメリットとデメリットを踏まえ、22年春採用ではオンラインと対面を併用して採用活動を展開する県内企業が目立つ。幅広い地域から多くの希望者を募りたい序盤の選考ではオンラインを活用。志望度合いの高さや細かな人物像を確認したい終盤では対面での面接を取り入れるケースが多くなっている。中には、学生の住む場所をオンラインと対面を使い分けたい企業もあり、県外の学生に対してオンラインで面接を行う一方、県内の学生には2週間分の検温などを協力してもらった上で、3密対策を取った会場で面接を行う社もあった。調査は、売上高や業種を考慮し、県内主要企業200社を対象に実施。151社(製造53社、非製造98社)から回答を得た。調査期間は5月6日～6月9日。

子の入院付き添い親負担増 交代制限 缶詰め状態

入院治療中の子どもに付き添って世話をする親の負担が、新型コロナウイルス禍の影響で増えている。感染拡大を受けて付き添いの交代が制限され、長期間病院に「缶詰め状態」となり心身に影響が出る親も。支援団体はサポート拡充の必要性を訴える。

「親の寝食について少しでも心配してほしかった。思い出すのもつらい」。四国地方に住む女性(37)は4月、先天性心疾患のある長女(3)の手術のため、県外の大病院で約2週間、付き添いを経験した。



夫と小学生の長男との4人暮らし。付き添いの交代が認められず、専業主婦の女性が病院で付き添いで寝たぎりの長女の食事やシャワーの介助をした。夜は、小児用ベッドで夜泣きする長女の隣に体を縮めて横になったが、寝不足が続いた。2日に1回、わずかな時間を見つけて、院内の売店に自分用の弁当やカップ麺を

入院中の子どもに付き添う母親に食料を手渡す光原ゆきこさん(左)2019年11月、佐賀市の佐賀大病院キープ・ママスマイリング提供

入院付き添いの例



子どもに添い寝が簡易ベッドで寝起き
食事は弁当やカップ麺など
短時間のシャワー

サポート充実求める声

家族を支援するNPO法人「キープ・ママ・スマイリング」(東京)は5月、インターネットアンケートを行い、付き添いを経験した家族約190人が回答。半数を超える人が3カ月以上付き添ったと答え、半数ほどが「体調が悪かった」と回答した。心の不調を訴えた人は7割、栄養不足と回答した人も8割以上に達した。家に残り長期間会えない入院中の子のきょうだいに對する悪影響を心配する声もあった。自身も長期間の付き添いを経験した同NPOの光原ゆき理事(47)は「病院がコストをかけずに工夫できることはある」と指摘。一部の病院が患者用の一般食

を親に有料で出したり、佐賀大病院内のレストランが付き添いの親への出前を始めた。四国地方の女性も、PCR検査で陰性が証明された家族との交代を認めることや、親への食事の提供を提案する。「病棟に保育士を配置することで、1日30分でも親が自由に動ける時間があれば良い」と訴える。光原さんは「コロナ禍で付き添う親の負担は高まっている。NPOやボランティアの力を借りて親の自由時間を確保するなど、サポートを充実させる必要がある」と話した。

子の入院付き添い

厚生労働省によると、入院中の子どもの世話は「入院基本料」に含まれ、看護師が行う前提とされており、家族の付き添いは本来不要。だが、患者が入院についての理解が難しい乳幼児などで医師が許可すれば、付き添いは認められる。その場合も病院側は強制ではないが、保護者に希望するよう促すことは可能で、実態として強要しているケースもある。多くの病院で親らが泊まり込んで世話をしている環境が整っていないことも多い。

山梨県側の富士山5合目での聖火リレーを終え、サポートランナーを務めた小学生にトーチを手渡す冒険家の三浦雄一郎さん(前列中央)。同左は次男の豪太さん—27日午前



子ども自殺増加で SNS相談拡充を 有識者会議が提言案

児童生徒の自殺予防策を検討する文部科学省の有識者会議はこのほど、新型コロナウイルスが拡大した昨年、小中高生が自殺が増加しており、孤立感を深める子どもでも活

る子どもでも活

児童生徒は前年人多い499人ある1980年うち女子高校生

国の家賃支援給付で、逮捕され省のキャリア官申請時に会社事務を容疑者自身ととが27日、捜査取材で分かった通知する仕組み視庁捜査2課は止のため虚偽申請があるとして2人を送検し捜査関係者に欺容疑で逮捕真容疑者(28)と郎容疑者(28)は宅など計3カ所「商事」(東京都

県内ドキュメント(27日)

10・10 三豊市の農具用の柄物を製造する事業者。祭り用の太鼓のばちや、鉦(かね)をた

の割り箸を入れた容器が置かれ、「よろしければお使いください」と呼び掛けられていた。13・10 まんのう町の国営讃岐まんのう公園で開催中の写真展に訪れた観音寺市の70代女性